

会 議 録

会議名	令和5年度 第2回丸亀市行政評価委員会
開催日時	令和5年6月29日(木) 14:15~16:40
開催場所	丸亀市役所 4階特別会議室
出席者	<p>出席委員 岩倉洋平、鹿子嶋仁、佐藤友光子、高濱和則、嵯峨根真千子、松村昌子</p> <p>欠席委員 なし</p> <p>事務局 市長公室長 栗山佳子 (市長公室秘書政策課) 課長 真鍋裕章、政策マネジメント室長 宇野大志郎 主任 横井俊介、主任 大川智</p>
議 題	<p>1. 所管課ヒアリング</p> <p>2. その他</p>
傍聴者	0名
発言者	議事の概要及び発言の要旨
真鍋課長	<p>ただ今より、第2回丸亀市行政評価委員会を開会いたします。議事に入る前に、本日の会議資料を確認します。</p> <p>なお、本日の会議は、議事録作成支援システムを使用し会議を記録しますので、恐れ入りますが、発言される際には、お手元のハンドマイクを使用しご発言ください。以後の議事につきましては、会長に議長をお願いします。</p>
鹿子嶋会長	<p>それではヒアリングに入る前に、現在6名の委員のご出席をいただいていますので、丸亀市附属機関設置条例の規定に基づき会議が有効に成立していますことをご報告させていただきます。今回のヒアリングの方法などについて確認しておきたいと思いますので、事務局より説明をお願いします。</p>
大川	<p><資料に基づき説明></p> <p>(以下、ヒアリングの状況)</p> <p>1. 教職員の働き方改革の推進 (学校教育課) (ヒアリングに出席した職員) 課長 岩井俊明、副課長 西山晋作</p>
鹿子嶋会長	<p>現状の課題について教えてください。</p>
西山副課長	<p>教育委員会では、働き方改革を推進するため、平成25年度に校務支援システムと教育クラウドを導入しており、教育現場に不可欠なものとなっています。校務支</p>

<p>岩倉委員</p>	<p>援システムは、5年に一度入れ替え作業を行っているところですが、令和5年度が入れ替えの年度に該当するため、新システムの定着までに時間がかかることや、物価高騰によるコストの増加が課題と認識しています。</p> <p>また、GIGAスクール構想を推進するにあたり、ICT教育の支援を行うICT支援員の増員が急務となっています。</p> <p>校務支援システムの入れ替え時期と新システムの定着期間を教えてください。</p> <p>また、システムが導入されたことにより、時間外勤務時間がどのくらい削減されましたか。</p>
<p>西山副課長</p>	<p>入れ替え時期については、夏休み期間中を予定していましたが、納品の遅延により、小学校は令和6年1月、中学校は令和6年2月を予定しています。定着期間については、令和6年4月までに職員8割程度の定着を想定しています。なお、今回の入れ替えは、現システムをベースとしたバージョンアップとなりますので、定着するまでにそれほど時間を要しないと考えています。</p> <p>また、時間外勤務時間の削減については、市が目標としている45時間未満を達成できていない状況で、依然として80時間を超えている教員もいます。しかしながら、減少傾向にあることは間違いありませんので、引き続き粘り強く取り組んでいきます。</p>
<p>松村委員</p>	<p>民間の場合、時間外勤務時間が80時間を超えると産業医の面談がありますが、該当する教員にどのようなサポートをしていますか。</p>
<p>西山副課長</p>	<p>時間外勤務時間が80時間を超えたからといって、すぐに面談はしていません。共済会において、全教職員を対象としたストレスチェックを実施しており、80時間を超えた教員に限定せず、希望した教職員に対し面談を行っています。</p>
<p>嵯峨根委員</p>	<p>時間外勤務時間の削減に向けては、学校事務職員の増員や外部人材の登用などが必要と考えていますが、どのくらい進んでいますか。</p>
<p>西山副課長</p>	<p>学校事務職員の配置については、香川県教育委員会が行っており、丸亀市教育委員会として加配などの要望を行っています。一方で、文部科学省で推進している共同学校事務室について、学校事務の再編と人材育成の強化を図るために導入に向けた検討を進めているところです。</p>
<p>高濱副会長</p>	<p>教員にパソコンなどのツールは行き届いていますか。また、ツールを活用するにあたっての支援は十分にできていますか。</p>
<p>西山副課長</p>	<p>全教員にパソコンは配布済みです。教員が活用している校務支援システムについては、サポートダイヤルによる電話サポートが受けられるほか、サポートが必要な</p>

	<p>学校に週1回程度支援員を派遣しています。</p>
高濱副会長	<p>校務支援システムを導入したことにより、事務負担が軽減され時間外勤務時間が減少している一方で、GIGAスクール構想に基づくICTの活用が求められ、習熟するのに時間を要することから、結果的に時間外勤務時間が増加していると思っています。教員がICTを習熟し、時間外勤務時間が減少に転じるためには、どのくらいの期間が必要と考えていますか。</p>
西山副課長	<p>授業におけるICTの活用は初めての試みであるため、教員間の技術格差も顕著で現場も混乱している状況の中、希望する学校にICT支援員を派遣していますが、さらなる増員が必要です。なお、時間外勤務時間が減少に転じるためには、3年程度の期間が必要と考えています。</p>
佐藤委員	<p>現場の教員の状況について教えてください。</p>
西山副課長	<p>小学校と中学校で運用が異なっており、小学校は学級担任制のため、ほぼ1日中パソコンを机に置いておけば良いのですが、中学校は教科担任制のため、使う教科と使わない教科の授業ごとに、5～10分かけて収納する作業をしなければならない煩わしさがあります。</p> <p>また、ICTの活用に意欲的な教員と不得手な教員との格差が広がっており、改善が必要です。</p>
嵯峨根委員	<p>部活動地域移行について、スポーツ推進課と意見交換した際、どのような意見が出たのか、また、どのように地域移行に取り組んでいるのか教えてください。</p>
西山副課長	<p>部活動地域移行については、前提として地域の受け皿が必要になりますので、全部活動が一斉に移行することは現実的ではありません。そこで、丸亀市としては、複数校の合同チームとして大会に出場する合同部活動方式のほか、自分が通学する学校に希望する部活がない生徒に対し、他校の部活動への入部を認める拠点校方式を進めていこうと動いています。</p>
鹿子嶋会長	<p>成果指標の目標値として、時間外勤務時間の削減率を25%に設定していますが、ここ2年間の実績に鑑みると達成が難しい印象を受けます。</p>
西山副課長	<p>目標値は高めに設定していますが、働き方改革の推進により、教員の意識は確実に変わってきており、遅い時間まで残っている教員の数も減っています。</p>
鹿子嶋会長	<p>ICTの推進により在宅でできる業務が増え、持ち帰って仕事をされる教員もいるのではないかと懸念しています。時間外勤務時間の削減に向けては、ICTの活用だけではなく、従来業務の洗い出しと見直しも並行して進めてください。</p>

	<p>また、部活動地域移行については、事故が起こった場合の責任の所在など難しい問題も多くあると思いますが、一つずつクリアしていただきたいと思います。</p>
佐藤委員	<p>部活動地域移行について、民間委託の話は出ていませんか。</p>
西山副課長	<p>民間委託の話は出ていませんが、競技によっては民間のクラブが設立されており、生徒の一部はクラブで活動しています。代表的な競技として、サッカーのクラブが以前より設立されており、今後他の競技に広がれば状況も変わってくるのではないかと考えています。</p>
	<p>2. スマートモビリティの推進（都市計画課） （ヒアリングに出席した職員） 課長 塊場具視、計画担当長 大関慎士</p>
鹿子嶋会長	<p>現状の課題について教えてください。</p>
大関担当長	<p>バスの混雑状況や位置情報、経路検索が可能であるアプリ版「バスきよん？」などの市民サービスを提供していますが、都会のようにコミュニティバスを他の公共交通機関にうまく接続できていないことが課題です。</p>
鹿子嶋会長	<p>公共交通機関への接続が難しい理由は、輸送手段の数の問題ですか。</p>
大関担当長	<p>丸亀市内の公共交通機関は、JRや琴電、バス、船となりますが、ダイヤの密度や便数が少ない状況にあるため、うまく接続できていないところです。</p>
佐藤委員	<p>便数の少ない方が、容易に接続できるのではないのでしょうか。</p>
大関担当長	<p>少ない便数にコミュニティバスを接続させようと意識していますが、コミュニティバスの性質上、各地域の主要な施設を経由する必要があるため難しい状況です。 また、コミュニティバスを運行するにあたり、公共交通機関に接続したい方や、地域の主要施設を巡回したい方といった利用者のターゲットを定める必要がありますが、絞り切れていない状況です。一方で、ターゲットを絞り、ダイヤを大幅に変更すると現在の利用者に不便をかけてしまう可能性もあります。</p>
佐藤委員	<p>ダイヤを改善していく方向性について教えてください。</p>
大関担当長	<p>丸亀市内には7路線のバスがあり、そのうち5路線が丸亀市、2路線が琴参バスで運行しています。市の5路線に限定し、ダイヤを大幅に変更することは難しいことから、琴参バスの2路線を含めたダイヤの調整や利便性の向上に向けて検討しています。</p>

嵯峨根委員	デマンドのアンケートを取っていますが、導入に向けた調査ですか。
大関担当長	コミュニティバスに限定した取組には限界がありますので、デマンドの実証実験の実施を前提にアンケートを行いました。実証実験では、デマンド導入によるバス乗客者数への影響などを検証したいと考えています。
嵯峨根委員	アンケート結果に免許返納後に利用したい声が多くある一方で、免許返納自体が進まないのではと思っていますが、どう考えていますか。
大関担当長	仮にデマンドを導入したとして、日常生活を考慮すると免許返納後の不便さが勝るのではないかと考えており、返納促進にどこまで寄与できるかは検証が必要です。
岩倉委員	「バスきよん？」は、GTF Sデータの公開などグーグルと連携していますか。
大関担当長	GTF Sデータを作成し、グーグルなどの経路検索の候補に挙がるよう設定しています。
岩倉委員	バスの運行状況によっては、バス停での待ち時間が発生すると思いますが、その待ち時間が軽減される仕組み、例えばエレベーターの前に鏡を設置するといったデザイン面での工夫も都市計画の一つだと思いますのでご検討ください。 また、法改正により注目されている電動キックボードについては、どう考えていますか。
大関担当長	電動キックボードについては、現時点で公共交通の手段として考えていません。観光部局において検討していると聞いています。
高濱副会長	コミュニティバスを市内の主要な施設や公共交通機関に接続する一応の役割は果たしていると考えていますが、JRや琴電のように他市町に接続されていない不便さはあると思います。市内を周遊するだけのバスではなく、例えば四国8の字ネットワークのように、近隣市町を接続することが、高齢化社会の対策として非常に重要ではないでしょうか。生活圏における利便性の確保と近隣市町を結ぶネットワークの強化、この2極の考え方をもち、首長同士で話し合うなど中讃地域全体の課題として取り組んでいただきたいと思います。
佐藤委員	瀬戸内中讃定住自立圏ビジョン懇談会においては、公共交通が大きなテーマの一つと認識していますが、都市計画課で取り組むことでしょうか。
真鍋課長	公共交通の広域連携の取組として、平成23年度から今に至るまで都市計画課で取り組んでいます。現在、丸亀市と善通寺市でコミュニティバスを運行しています

	<p>が、丸亀市は200円、善通寺市は無料といった運賃の差などを理由に広域連携の実現に至っていません。</p> <p>しかしながら、令和4年度に善通寺市のバスの在り方を変える話があったことのほか、丸亀市のバス路線を多度津町へ拡充して欲しいという要望も受けていることから、広域連携の実現に向けて引き続き協議を進めているところです。</p>
松村委員	<p>コミュニティバスのターゲットが絞れていない課題の解決に向けた今後の方針について教えてください。</p>
大関担当長	<p>デマンドの実証実験結果に基づき、デマンドの必要性や実験エリアの拡大を検討するほか、将来的にはバス路線全体の見直しにつなげていきたいと考えています。</p>
松村委員	<p>デマンドの利用目的の7割を占める買い物と通院をカバーできれば、最低限のインフラ整備ができていると考えて良いのではないのでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>島しょ部における公共交通機関の運用について、どういう考えを持っていますか。</p>
大関担当長	<p>島しょ部では、本島・広島においてコミュニティバスが運行しています。広島については、NPO法人が運行しており、定時定路線に加え、デマンドサービスを行っていますが、本島は、陸地部と同様の定時定路線のみで運行しており、一部島民からは、定時定路線に限定する必要があるかという議論もあることから、デマンドへの切り換えも一つの手法として考えています。その一方で丸亀市では、島しょ部への観光客誘致にも力を入れており、初めて来島された観光客に対し、デマンドがなじむのかという懸念もあるので、総合的に検討していきたいと思えます。</p>
	<p>3. 地場・伝統産業の振興（産業観光課） （ヒアリングに出席した職員） 課長 平尾聖、商工労政担当長 村山真也、永原浩子</p>
鹿子嶋会長	<p>現状の課題について教えてください。</p>
平尾課長	<p>丸亀うちわの担い手の高齢化と後継者不足が課題と捉えており、うちわ技術技法講座による後継者の育成を行っていますが、受講後にうちわ工房竹やうちわミュージアムに携わっていただける方は、受講者の一部にとどまっているため、人材の確保が急務となっています。</p> <p>また、技術技法講座と並行して実施しているうちわニュー・マイスター認定事業においては、技術技法講座受講後の3年間、継続的に丸亀うちわに携わっていただいた方をマイスターに認定し、活動の後押しをしているところですが、当初想定していた認定者による団体の組織化までに至っていないのが現状です。</p>

鹿子嶋会長	人材の確保を課題に挙げられましたが、具体的に教えてください。
平尾課長	竹うちわの職人が少なく、大量受注ができない状況となっています。
佐藤委員	過去に学生とうちわ工房竹などの丸亀うちわを調査した際には、後継者の育成がうまくいっている印象を受けましたが、状況は悪くなっているのでしょうか。
平尾課長	当時から継続的に技術技法講座を実施し、うちわ工房竹や中津万象園に移転したうちわミュージアムで活動する職人を育成しています。講座の修了生は、従来の分業制ではなく、竹の伐採から始まる全47工程を一手に行っており、アーティストと言われています。一方で、講座の修了生は、主に仕事をリタイヤされた方が多いほか、うちわの製造だけで生計を立てるのが難しいことを理由に、後継者を見つけることが難しい状況です。
岩倉委員	ニュー・マイスター制度について、厚生労働省のものづくりマイスター制度とタイアップしていますか。タイアップすると、小中学校の授業の一環として体験指導ができるようになります。
平尾課長	厚生労働省とはタイアップしていません。現在、経済産業省とタイアップし、補助金をいただきながら継続的に技術技法講座を実施しています。
岩倉委員	厚生労働省のものづくりマイスター制度の活用をぜひ検討してください。 また、アフターコロナによる観光需要の高まりに対応するためにも、人材不足の解消が必要と思います。そこで、先ほどリタイヤされた方の受講生が多いと説明がありましたが、後継者になりうる若年層への情報発信はどのように行っていますか。
永原	技術技法講座の受講生募集については、市の広報紙やうちわ連合会のホームページのほか、うちわ工房竹といった各所にチラシを設置していますが、若年層向けの情報発信は不十分であると認識しています。
佐藤委員	受講者は県内の方が多いですか。
永原	募集人数8名程度のうち、県内の方が大部分を占め、1～2名が県外の方となっています。
佐藤委員	地方移住の関心が高まっている中、県外からの移住者が新しい担い手になる動きも期待したいと思います。また、岩倉委員の意見のとおり、小中学校の授業の一環として、うちわづくりの体験をさせることが郷土教育の観点からも必要だと思います。

嵯峨根委員	<p>うちわ職人はアーティストという視点に立った情報発信も必要ではないかと考えています。そこで、絵画を専門とするアーティストとのコラボや、巨大うちわといった目を惹くうちわの制作など、新たな道筋を模索してはいかがでしょうか。</p>
平尾課長	<p>丸亀うちわと猪熊弦一郎現代美術館をはじめとする文化芸術とのコラボを観光庁の協力を得ながら進めていきたいと考えています。</p> <p>また、丸亀高校が甲子園に出場した際には、丸亀市で大うちわを用意するなど、様々な機会を捉えたPRを行っています。</p>
松村委員	<p>うちわの価格が安く、生計を立てられないことが人材不足につながっていると考えており、うちわの付加価値を高める取組が必要だと思います。</p>
平尾課長	<p>課題の一つとして捉えていますが、価格を上げることによりうちわが売れなくなことをうちわ職人は懸念しています。また、ポリエステルのうちわにおいても、SDGsの進展により販売数が鈍化するなど、厳しい状況にあると聞いています。</p>
佐藤委員	<p>伝統工芸の側面からうちわの価格を上げることは、市場相場もあり難しいと思っている一方で、注目を集めやすいうちわの絵柄をアーティストックにすることにより、付加価値を高めることができるのではないかと考えています。</p>
松村委員	<p>安価な日用品であるうちわの特性により、価格を上げにくい側面はありますが、富裕層向けの高級うちわなど、美術品の一つに位置付けることで付加価値を高められるのではないかと感じています。</p> <p>また、うちわのデザイン候補として、有名アニメとのコラボにより、ファンをはじめとする一定数の購入が見込めると思いますので、丸亀市がタイアップの仲介をするなどの支援を検討していただきたいです。</p>
高濱副会長	<p>これまで丸亀市は、うちわの生産量が日本一であることをPRしてきましたが、伝統工芸品である丸亀うちわの本当の価値が失われているように感じています。デザインのコラボを行い販売本数が増えたとしても、結局は一過性のものに過ぎません。今後は、丸亀うちわそのものへの価値を改めて見出すとともに、丸亀うちわで生計を立てられるようどう持っていくかが重要だと思います。</p>
佐藤委員	<p>日用品の概念を超えないと付加価値は上がらないと思います。丸亀うちわの持つ強みを活かしたPRが必要ではないでしょうか。</p>
鹿子嶋会長	<p>成果指標の目標値である1億6,000万本は、ポリエステルのうちわを含んだ数と理解していますが、担当課として、うちわの価値の比重をどこに置くのかによって指標も変わってくると思います。例えば、丸亀うちわが伝統工芸品であることに比重を置くのであれば、ニュー・マイスター認定者数を指標にした方が適切です。何</p>

	<p>に比重を置くべきか検討が必要ですが、まずは丸亀うちわで生計を立てることができ経済的基盤を築き、そして付加価値を高めていく取組が必要ではないでしょうか。</p> <p>また、丸亀市のうちわ生産量のシェアが9割という強みが、丸亀うちわのすばらしさに直結していないと思いますので、従来の強みを活かす取組を考えていただきたいと思います。</p> <p>4. 糖尿病等予防対策の推進（健康課・保険課） （ヒアリングに出席した職員）</p> <p>健康課 課長 合田三枝、副課長 江渕貴彦、成人保健担当長 安藤和代</p> <p>保険課 課長 岸本圭一、福野江美</p> <p>鹿子嶋会長 現状の課題について教えてください。</p> <p>合田課長 全国的にも香川県は糖尿病の死亡率が高く、丸亀市も低くはありません。糖尿病予防の取組は、健康課だけではなく、地域や関係機関の協力を得ながら進めており、若年層に健康への関心を持ってもらうきっかけづくりを中心に取り組んでいます。</p> <p>鹿子嶋会長 香川県の糖尿病死亡率が高い原因や背景について教えてください。</p> <p>合田課長 原因としては、やはり食事と運動と考えています。以前、全国ワースト1位となった時に比べ改善されてはいるものの、ワースト上位に位置しています。</p> <p>岩倉委員 令和3、4年度の決算状況に比べ、令和5年度の予算額が増額となっている理由について教えてください。</p> <p>福野 令和3年度から令和4年度にかけてのデータヘルス計画事業費の減少については、糖尿病性腎症重症化予防事業の参加者減少によるものです。令和5年度予算の増額については、令和5年度がデータヘルス計画の改定年度にあたり、その策定費用分が増額となっています。</p> <p>安藤担当長 令和3、4年度はコロナの影響で活動が停滞したことにより、決算額が低くなっています。令和5年度は、コロナ禍前の状態に戻ると見込んでおり、コロナ前の予算規模となっています。</p> <p>嵯峨根委員 どういった方が特定保健指導を受けていますか。</p>
--	---

安藤担当長	丸亀市の国民健康保険加入者を対象にした特定健診の結果で、メタボリックシンドロームに注意が必要な人が指導を受けています。
嵯峨根委員	オンライン特定保健指導のオンシェルジュの利用はどのくらいですか。
安藤担当長	令和4年度の利用者は数名です。基本的には対面で実施しています。
嵯峨根委員	若年層や高齢者にとって、現地に行かなくても良いことはメリットになりますので、利用者が増えるよう周知に力を入れていただきたいと思います。
松村委員	特定健診受診率が、40%に満たない率で推移しているのに対し、2025年度の目標値を45%としていますが、特定健診を必ず受ける方と、受けない方にはっきりと分かれているのではないかと考えています。そこで、受けない方に対しどのようなアプローチしているのか教えてください。
安藤担当長	受診者の内訳については、十分に分析ができておらず今後の課題と感じていますが、アプローチを重ねても受診しない方が一定数いると想定していることから、受診していただきやすい方から勧奨を進めていきたいと考えています。
鹿子嶋会長	特定健診受診率と特定保健指導実施率の目標値を高く設定していますが、受けない方は勧奨されても受けない傾向を踏まえると達成は難しい印象を受けます。
安藤担当長	国の目標値である60%を参考に設定しています。
高濱副会長	特定健診の受診方法や場所は、受診者自身で選択していますか。
安藤担当長	集団健診と個別健診を選択していただきます。集団健診については、年間10回程度実施しており、旧丸亀、綾歌、飯山の各地区で日にちを設定し実施しています。個別健診については、受診券送付時や勧奨通知時に受診可能な医療機関をお知らせしています。
高濱副会長	まずは、特定健診を受診しない理由を把握しなければ受診率を向上させることは難しいと思いますので、引き続き分析を進めてください。 また、受診率向上に向けた取組については、他市町の先進事例を研究していただくとともに、自分の健康に責任を持ち、特定健診を受診していただける事例を民間企業にも共有していただきたいと思います。
松村委員	特定健診受診率の向上に向けた取組として、子どもから父母、孫から祖父母へと受診勧奨するのはどうでしょうか。子や孫から言われることで、意識が少しずつ変わってくるのではないかと思います。

	<p>5. 瀬戸内国際芸術祭との連携（文化課） （ヒアリングに出席した職員） 課長 村尾剛志、副課長 石川真司</p>
鹿子嶋会長	瀬戸内国際芸術祭を開催してきて見えてきた課題について教えてください。
石川副課長	瀬戸内国際芸術祭の非開催年度における来訪者の減少が大きな課題です。島民からも同様の意見をいただいております、解決に向けた取組を検討しているところです。
佐藤委員	丸亀市の会場は、本島だけですか。
石川副課長	本島のみで、他の島に作品は配置していません。
佐藤委員	オーバーツーリズムの問題について、どう考えていますか。
石川副課長	オーバーツーリズムは、丸亀市に限らず芸術祭全体として心配されている問題です。丸亀市の本島だけで受け入れることは難しいので、中讃地域全体によるインバウンドなどの受入体制を整えるほか、高松市で宿泊しJRで来訪される方も多くいることも踏まえ、香川県とも連携していきたいと思っています。
佐藤委員	中讃地域で受入する場合、交通手段をどのように考えていますか。
石川副課長	今回試行した広域巡回バスの運行結果に基づき、他の公共交通機関への接続を念頭に置いた運行を、次回に向けて検討したいと思います。
佐藤委員	西讃の会場に行きたいニーズは、どのように対応していますか。
石川副課長	香川県の事業として、三豊市の粟島、多度津町の高見島、丸亀市の本島を結ぶ臨時航路とJRを利用いただいています。
岩倉委員	<p>3点教えてください。1点目、案内所運營業務の報告書に、キャッシュレス決済の不具合や人員不足が示されていますが事前確認は十分に行いましたか。</p> <p>2点目、広域巡回バスを試行的に走らせた取組の効果について教えてください。</p> <p>3点目、芸術祭の非開催年度の来訪者減少の対策として、通町商店街を活用した定期的なイベントを行うことで本島への動線に成り得ると考えていますが、いかがでしょうか。</p>
石川副課長	<p>1点目のキャッシュレス決済や人員不足については、不十分な点があったかと思っておりますので、次回の反省点にさせていただきます。</p> <p>2点目の広域巡回バスについては、県内からの参加者が多かったこともあり、乗</p>

	<p>客数の実績は非常に厳しいものとなりました。坂出と丸亀を結ぶ東西の路線においては、一定数の利用がありましたので、今回は重点的に走らせたいと考えています。</p> <p>通町商店街のイベントについては、瀬戸内国際芸術祭に來られたお客様を丸亀の内陸部に誘導する目的で開催しました。定期的にイベントを開催するとなると猪熊弦一郎美術館との協議、協力が必要になってくるかと思ひます。</p>
<p>岩倉委員</p>	<p>瀬戸内国際芸術祭は、多くのお客様が來訪するので、実証実験を行う良い機会と認識しています。商店街のイベントについては、丸亀市が主体となって実施するのではなく、猪熊弦一郎美術館やその他団体などに対し、補助金や委託料により実施していただく方向性が良いかと思ひます。</p>
<p>松村委員</p>	<p>瀬戸内国際芸術祭において、丸亀市内の來訪者は増えていますか。</p>
<p>石川副課長</p>	<p>丸亀市民の來訪者数は把握できていませんが、県外の來訪者の方が多くを占めていることも課題の一つと感じています。近辺にお住まいの方にも瀬戸内国際芸術祭や本島のことを知っていただきたい思ひがありますので、令和5年度には、瀬戸内中讃定住自立圏の取組の一環として本島バスツアーを企画しており、本島や芸術祭の作品などの魅力を感じていただける機会を設けたいと考えています。</p>
<p>高濱副会長</p>	<p>瀬戸内国際芸術祭の開催年度と非開催年度のギャップが大きく、非開催年度に本島に來訪しても、特に観光するところもなく、飲食店も少ないと聞いています。多くの方の來訪は難しいと思ひますが、先般の公共交通無料キャンペーンに合わせたイベントを開催するなど、行って良かったと思える取組があったら良いのではと感じました。</p>
<p>村尾課長</p>	<p>香川県において非開催年度に予算をつけて動く姿勢が見られない状況の中、丸亀市では、瀬戸内国際芸術祭を忘れさせないためにも、非開催年度において、本島に行って魅力を感じていただけるバスツアーなどの企画に取り組んでいこうと考えています。</p> <p>副会長からご指摘のあった飲食店の問題については、いつお客様が來るか分からず定着しにくい状況にある中、本島漁協の若手で構成された本島さかな部が、SNSの活用や500~600人規模の自主イベントの開催など、本島の魚や島の魅力を発信しています。丸亀市としては、こうした頑張っている団体を応援しながら、瀬戸内国際芸術祭に來ていただけるような取組やPRに具体的に取り組んでいきます。</p> <p>また、コロナ禍であったにも関わらず2019年の前回に比べ、本島住民や内陸部からの手伝い、出店希望者数が増加していることを踏まえ、協力的な方へのフォローアップをどうしていくかを次回に向けて丁寧に検討したいとも考えています。</p> <p style="text-align: right;">(ヒアリング終了)</p>

鹿子嶋会長	最後に、事務局より今後の作業の進め方など説明をお願いします。
大川	<スケジュール等について説明>
鹿子嶋会長	それでは、以上で本日の会議を終了します。
	(会議終了)